

中野区教育委員会会議録

令和5年第19回定例会

令和5年6月2日

中野区教育委員会

令和5年第19回中野区教育委員会定例会

○日時

令和5年6月2日（金曜日）

開会 午前10時00分

閉会 午前11時17分

○場所

中野区立みなみの小学校

○出席委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 村杉 寛子

教育委員会委員 平本 紋子

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

○欠席委員

教育委員会委員 岡本 淳之

○出席職員

教育委員会事務局次長 濱口 求

子ども・教育政策課長、学校再編・地域連携担当課長

渡邊 健治

指導室長 齊藤 光司

学務課長 佐藤 貴之

子ども教育施設課長 藤永 益次

みなみの小学校校長 吉羽 茂

南中野中学校校長 竹之内 勝

○書記

教育委員会係長 香月 俊介

教育委員会係 伊藤 芽依

○会議録署名委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 村杉 寛子

○傍聴者数

9人

○議事日程

1 協議事項

(1) 学びを深める地域の力と学校の力について

○議事経過

午前 10 時 00 分開会

入野教育長

おはようございます。定足数に達しましたので、教育委員会第 19 回定例会を開会いたします。

ここでお諮りいたします。

本日は、株式会社ジェイコム東京から、取材のため教育委員会の会議を撮影したい旨の申し出がありました。

会議を撮影する場合には、教育委員会の承認を受ける必要がございます。

これを承認したいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、会議の撮影を承認することに決定いたしました。

なお、撮影に当たっては、会議に差し支えないように行っていただきますようお願いいたします。また、傍聴の方を撮影される場合には、個々に了承を得てから行っていただきますよう、お願いいたします。

それでは、議事に入ります。

本日の会議録署名委員は、村杉委員にお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりでございます。

さて、本日開催いたします地域での教育委員会は、中野区において開かれた教育行政を一層推進するために、区役所以外の場所に会場を移して開催しているものでございまして、今回で 41 回目の開催となります。

会議の進行につきましては、通常の教育委員会と同じように進めてまいります。本日の協議事項の「学びを深める地域の力と学校の力について」につきましては、テーマに関連して、小中学校の校長先生方にお話を伺う予定でございます。また、協議事項の終了後、会議を一旦休憩いたしまして、協議テーマ、その他教育に関して、傍聴の方のご意見をいただく時間を設けたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

<協議事項>

入野教育長

それでは、協議事項、「学びを深める地域の力と学校の力について」を協議いたします。

初めに、指導室長から、区の取組等についてお話をいただきます。その後、小中学校の校長先生方から取組等をご紹介いただいた後、教育委員の先生方からご意見を伺い、協議を進めてまいりたいと思います。

初めに、事務局から説明をお願いいたします。

指導室長

中野区教育委員会事務局、指導室長の齊藤光司と申します。私から「学びを深める地域の力と学校の力について」、お話をさせていただきます。

中野区はこれまでも子どもから高齢者まで全ての世代が、文化や芸術に親しみ、地域における学びや社会活動にも参加しながらつながりを築いてきたまちであり、学校教育においても、これまで学校間と地域のつながりの強みを生かした教育を進めてきております。ごらんいただいている画面は、中野区基本構想や中野区教育大綱で述べられているものです。

それでは、新しい中野区教育大綱にある二つのことに関わる学校教育の実践について、ご報告をさせていただきます。

初めに、家庭・地域と連携した教育ですが、中野区教育ビジョン（第4次）で「家庭・地域・学校の連携による教育」をうたっており、中野区では、家庭・地域、学校が相互に連携・協力・補完し合い、それぞれが自らの役割と責任を自覚し、社会全体で子どもの「生きる力」を育てていきます、としております。現在の地域と学校の連携・協働による地域・学校協働活動の推進や、中野区コミュニティ・スクールの推進を、モデル中学校区において行っております。

それでは、本日のテーマの中の「学びを深める地域の力」について、ご説明いたします。画面に示してあります様々な事業は、区や都で予算化してある事業の一部となります。現在、学校には多くの方々が支援に入ってきており、保護者や教職員と協力して、学校の主体的・自立的な運営や、地域に根差した学校づくりや、子どもたちの学習支援に参画していただいております。専門性を発揮していただき授業の質を高めていただいたり、教育活動への協力や地域の活動等を通して、地域の伝統や文化を子どもたちに直接伝えていただいたりしております。地域で学ぶことに多大なるご支援をいただいております。今後は、地域・学校協働活動として、さらに組織的・継続的に充実をしていこうと考えております。

次に、テーマの中の学校の力として、学校の地域貢献とでも言いましょうか、小中学生の主体的な取組等について、ご説明をさせていただきます。中野区の中学校では、地域の様々

なイベントに中学生がボランティアとして参加をしております。地域清掃や防災訓練に参加することで、まちづくりや地域づくりにも、学校と一緒に関わらせていただいております。これらのことを通じて、子どもたちも地域活動を支える人材として、自分たちのできる役割を考え、今後の地域活動を担える大人へと成長してくれることを期待しております。

この質問項目は、令和4年度に区の学力調査を実施した際、中学校3年生を対象に行った意識調査のものです。肯定的な回答の割合の順にご紹介させていただきます。(1)地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。こちらが71.3%となっております。(2)地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。こちらは66.3%となっております。(3)地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。こちらは54.0%という結果でございます。

今回は、学校の力として、中学生の年下の子どもたちとのふれあいや、協力して行った活動をご紹介させていただきます。中学校区の小学生のリーダーとして中学生が活躍した事例です。こちらの写真は保幼小中連携の取組の一環として、あいさつ運動や、積極的に地域清掃に取り組んでいる様子でございます。こちらの写真は、先日、みなみの小学校の児童と南中野中学校の生徒が、じゃがいも掘りとさつまいも苗植え付けのボランティア活動をした際の様子です。ほかにも、中学生が夏休みなどに小学生の学習支援として活躍している事例は、区内の中学校でも数多くございます。このほかにも多くの活動を行っておりますが、ボランティアに参加した生徒からは「活動での交流を通して地域の方々とふれあうことのよさや、ボランティア活動に対する達成感を感じることができた」との声が届いております。今後も積極的に地域と関わる中で、自分たちの住む地域を笑顔にしてほしいと願っております。

今後も、学校間と地域とのつながりをさらに強化し、子どもたちの成長や学びに地域の力をお貸しいただきたいと思っております。また、学校の地域貢献としても、小中学校の子どもたちの力を地域の様々なイベントや取組などの場で発揮できればと考えております。

以上で説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

入野教育長

続きまして、本日の会場でもありますみなみの小学校の吉羽校長先生からお話をお伺いしたいと思います。

吉羽校長先生、よろしく願いいたします。

みなみの小学校校長

みなみの小学校校長の吉羽です。よろしくお願いたします。

簡単に自己紹介ですが、文京区の特別支援学級担任を3年間、そこから教員生活がスタートしました。その後、練馬区、中野区ということで、中野区では、谷戸小学校、中野神明小学校、そして、みなみの小学校ということで勤務させていただいています。谷戸小学校におやじの会というのがありまして、先日25周年にご招待いただいたのですが、大変地域が盛んです。また、この南中野の地域は町会間の連携がすごく強くて、青少年育成地区委員会の人たちが熱い思いを持って、子どもたちを育てて、見守ってくれています。子ども食堂等も早くから開かれている、そういった地域で勤務させていただいています。

それでは、説明をさせていただきたいと思います。

みなみの小は開校6周年を迎えました。みなみの小の特色、こちらは子どもたちがアンケートで答えたものです。「いやなことを跳ね返し良いことにする、みなみの小」、「全校みんなが、勉強を頑張っている、みなみの小」、「小さなきせきを大きなきせきにする、みなみの小」、子どもたちは本当にうれしい感想を書いています。

こちらは、新1年生の保護者会で、これから入学する保護者に向けて、みなみの小学校の特色として説明させていただいています。7点説明させていただいているのですが、こちらの1点目に、地域との連携、保幼小中連携というのをみなみの小学校の特色に書かせていただいています。あと、特別支援学級「神明学級」の設置校でもありますので、こちらでの交流及び共同学習というのも特色の一つで、地域や保護者の方にいつも熱く語らせていただいております。

先ほど指導室長からも説明がございましたので簡単にしますが、中野区教育ビジョンの目標のほうに「保幼小中連携や家庭・地域との連携が進み、子どもたちが生き生きと学んでいる」。取組の方向性の中に「家庭・地域と学校が目標を共有し、地域の人材、文化財、施設、自然等を活用した教育の展開」、こういった目標が示されています。こちらを受けまして、こちらは今年度の私の学校経営方針の概要になっています。一番左の「かしこい子～キャリア教育の充実～」の3点目の取組として、「家庭・地域や企業と連携した学習の推進」というのを挙げさせていただいています。

それではこれから、これまでの実践から地域の力を生かした学びについて、紹介させていただきます。

まず、地域の力の活用として、「見つけよう！夢・あこがれ・未来の自分」「日本を紹介しよう」「大先輩に学ぼう」、こういった取組を実践しております。

文化芸術体験としては、和太鼓体験、和妻体験、染め物体験、こういったものを子どもたちが6年間の中で学べるようにしています。この和太鼓体験は、地域で和太鼓教室をやっている暁さんというグループに、本校に来ていただいています。この写真は、校庭のお披露目、新校舎の落成記念集会のときに、校庭でたたいていただいた様子です。

それから、アスリートとの交流として、これは地域の方ではないのですが、リレー種目の銀メダリスト、朝原宣治選手、陸上競技100、200メートルの日本記録保持者の福島千里選手、バスケットボールの大崎佑圭選手等、このみなみの小が開校してからこれだけの方に来ていただいて、子どもたちはアスリートと交流し、アスリートから貴重なお話を聞くことができました。

企業との連携では、水道キャラバンや、下水道キャラバン、それからトヨタ・モビリティにご協力をいただいて福祉車両を使った学習、それからプログラミング学習、清掃局によるふれあい環境学習や、情報モラル教室を展開しております。

また、PTAからの支援として、読み聞かせサークル。こちらは低学年の子が喜んで休み時間に図書室に行って、読み聞かせを聞かせていただいています。サイエンス・マジックショー、そしてダンスパフォーマンス・ワークショップ、こういったものを実施しております。

保幼小中連携の独自取組として、こちらにたくさん挙げさせていただきましたが、こちらは、私の後の竹之内校長先生にきっとたくさんお話ししていただけるのではないかなと思いますので、画面を見ていただくだけで次のスライドに移りたいと思います。

その他として社会の力活用事業、これは後ほど説明させていただきます。

それから、東京都の事業である子供を笑顔にするプロジェクト。あと、体づくり運動教室として、NHKラジオ・テレビ体操指導者、多胡肇先生、そして健康づくり教室、生活リズムの学習で、日本体育大学教授の野井真吾先生に毎年来校いただいて、子どもたちに直接ご講演をいただいたり、実技の指導を行っていただいています。

この中から幾つか取組を紹介させていただきます。6年生総合的な学習の時間「見つけよう！夢・あこがれ・未来の自分」です。活動のねらいとしては、保護者、地域の方から、ワークショップ形式で職業について学ぶ、そういった学習です。CMプロデューサー、a uの三太郎シリーズのコマーシャルに関わっているといた保護者がいましたので、その方から貴重なお話を伺いました。ちょっと変わったところでは、養蜂家の方に来ていただいて実際にはちみつ等も持ってきていただきました。それから、トレーナーや、ダンサー、イ

インテリアコーディネーター、実に様々な職業の方に来ていただいて、子どもたちがワークショップ形式でお話を伺うことができました。

いらした方からのメッセージとして、様々な制約や壁があっても、続けていればチャンスは訪れる。好きであれば、努力もつらくない。例えば、プロ野球選手になれなくても、夢をあきらめないでほしい。野球に関わる仕事はたくさんある。こういった貴重なお話や、自分がこれまでの経験を通して学んだことを子どもたちに伝えてくださいました。

次に、6年生の「日本のよさを伝えよう」です。こちらは、日本語学校の学生や保護者に日本の文化を紹介する、こういった取組です。一番左側の写真は、習字を留学生に教えているところです。真ん中はお茶ですね。一番右は、ちょっと何しているかなと思うかもしれませんが、これは、子どもが足湯を再現しているのですね。たらいにお湯を張って、日本の文化、温泉についてということで紹介している取組になります。

こちらは3年生の社会科「大先輩に学ぼう」です。中野神明小学校、新山小学校の卒業生である大先輩から、昔の学校や地域の様子について学んでいます。右側は、残念ながらお亡くなりになったのですが、町会長をやられたり、郷土史の研究家、そして『目で見ると中野区の100年』の編纂等にも関わった立石先生が、自分でつくられた資料、スライドを使って子どもたちに語ってくださっています。

全体会の後は、このように各クラスに分かれて、グループごとにお1人大先輩に入っただいて、取材、インタビューをしたりしています。子どもたちにとっては、こういったメトロ工場のあたりは、田が広がっていたりであったり、校舎がなくなって、青空で授業をしていた時代もあったり、校庭で入学式を行ったり、貴重な話を伺いました。この後、子どもたちと一緒に大先輩が給食を食べてくださりまして、給食の献立も大先輩の口に合うような、ちょっと懐かしいような、でも、あまり洋食っぽくないようなメニューを工夫させていただいています。

先輩たちからはこのように、「学校はいつの時代も子どもたちにとって心の故郷です。」「よい学校がつかれるよう、これからもみんなで学校を応援します。」こういった温かい応援をいただきました。

こちらは、地域の商店に出かけていく3年生の「地域のすてきなお店を紹介しよう」です。インタビューやお店体験を通して、地域の商店の特色やよさや工夫を知り、そのよさを伝えるという活動です。

開校当時の担任が本当に1軒1軒回ってお願いして、実にたくさんのお店、約25ぐらい

の商店一つ一つお約束をとって、訪れることができました。実際にお店の体験をしているところです。ちょっと変わっているところでは、理髪店で、お客様の頭に石けんの泡を塗っているところです。商店街の方からは、「子どもたちに元気をもらいました。これからも活気ある商店街を目指していきます」。これは主に川島商店街なのですけれども、こういった活動を展開することができています。

課題としては、やはり新型コロナウイルス感染症の影響で活動が縮小してしまっているというのが大変大きな課題でして、今年またこれを、学校の授業自体もかなり開校当時よりは新しい学習内容が入ってきたりしていますので、今の時代に合った活動に、また改めて組み直して、地域とのつながりを強めていけたらと思っています。

こちらは、社会の力活用事業です。専門分野の社会人を特別非常勤講師として学校現場に迎え入れることで、学校教育の多様化への対応や教員負担の軽減を目的とすると、そういった東京都の事業になります。昨年度、中野区でみなみの小が1校、こちらを活用させていただきました。期待される効果としては、子どもにとっては高度な技術を生かして社会で活躍する姿に触れて、刺激を受けることができたり、専門的な技能を学ぶことができる。教員にとっては授業準備にかかる負担が軽減できる、そういったよさがあります。講師は体操競技の全国大会、団体種目で入賞歴がある、そういった講師に来ていただきました。1、2年生の器械運動系・跳び箱を使った運動遊びで、各学級6時間、計42時間、講師の先生に入ってくださいことができました。

成果としては、こちらにあるとおりです。着地ですね。教員だとなかなか着地まで目がいけないのですけれども、安全な着地という、かなり専門的な、でも、器械運動でやっぱり最も大事な着地というところを、1、2年生もわかりやすく学ぶことができました。あと、苦手が生まれやすい種目なのですが、決して技能だけに走らずに様々な運動感覚を磨くことで、学習意欲や技能の高まりにもつながりました。教員にとっても、なかなか苦手な領域の技能を学んだり、それから授業中に評価を、生の現場で子どもたちの評価を行うことができたということで、評価の精度も高めることができました。

こちらは東京都の「子供を笑顔にするプロジェクト」です。テレビでよく見かけるジャングルポケットが来校しました。子どもたちの質問に丁寧に答えてくださいました。

子どもたちは、思いがけないきっかけや出会い、運命の不思議さ、こういったものが大変に強く印象に残る、そういった取組になりました。「校長先生、最高でした」という、本当にそういったもう満面の笑みで、子どもの笑顔が本当に久しぶりに見られたなというふう

に、私たちもうれしくなった、そういった1時間でした。

こちらは、学校の力を地域に生かしている取組です。こちらは、「弥生の園」に5年生が出かけて行って、地域の高齢の方と交流をしているところです。高齢の方がこれまで生きてきた道筋や、今も趣味や喜びを持って生きていることに敬愛の念を持つとともに、自分にできることは何かを考え、実践していこうとするという、そういった態度を育成するのに大いに役に立っています。こちらも、やはり高齢の方でコロナ禍ということで、この2、3年は直接会うことができずに、工夫としては、ビデオレターを届けたり、お手紙を届けたりということで交流は今も続けています。今年度、また職員の方からはぜひ来てほしいといったリクエストもありますので、活動が再開できたらなというふうに考えています。

みなみの小で目指す児童像の一つに、「感謝の念をもち、自分にできることで返していく子」というのを昨年度の重点にしました。その中で、「落ち葉拾いプロジェクト」であったり、「マスコットキャラクターをつくろうプロジェクト」というのを子どもに呼びかけて、大変大きな反響がありました。中学生と違ってなかなか外に出ていくことはできないので、自分にできることで返していく、こういった意識を育てることが大事なのではないかなと考えています。

こちらは、学校で独自に取っている学校生活アンケートです。「自分を支えてくれる人に感謝し、自分にできることで返していきたいと思う」。「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した児童は95%です。そして、「みなみの小や南中野の地域はよいと思う。」もうはっきり好きである。そういった質問に対して、93.8%の子どもたちが肯定的な回答をしてくれました。

最後、そろそろまとめに入るのですが、私がこれまでお世話になった校長先生から、こういった言葉を学ぶことができました。「よい地域はよい学校をつくる、学校づくりは地域づくり」。よい地域とよい学校、学校と地域のスパイラル、こういったものがあるのではないかなというふうに、私もその話を聞いて考えました。

まとめです。学校、家庭・地域の連携で子どもの成長を支える。これからの社会をつくるうえで最も重要なことは、未来を担う子どもたちの成長を、学校を含めた地域総がかりで支えること。みなみの小学校で家庭・地域の力を生かして学びを深めた子どもたちが、南中野中学校に進学し、地域で力を生かせる生徒となり、いつしか地域を担う人材となるよう、今後も教育活動の充実を図っていきたいと思います。

中野区型コミュニティ・スクール、こちらを見据えながら、これからも教育活動の充実を

図っていきたいと思います。

以上で終わります。ありがとうございました。

入野教育長

吉羽校長先生、ありがとうございました。

それでは、続きまして南中野中学校、竹之内校長先生から、お話をお伺いしたいと思います。竹之内校長先生、よろしく願いいたします。

南中野中学校校長

南中野中学校校長、竹之内勝と申します。足立区、練馬区の公立中学校におきまして、特別支援学級の教員、そして通常の学級での保健体育課教員として24年間勤務し、その後、東京都稲城市での教育行政を経験、中野区に管理職等として10年目を迎えています。どうぞよろしくお願いいたします。

中学校学習指導要領の前文にあるとおり、これからの学校には、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められています。併せて、中野区教育ビジョン（第4次）、目標Vに「地域との連携が進み、子どもたちは生き生きと学んでいる」とあります。南中野中学校では、ボランティアマインドの醸成によって、自己有用感に裏づけられた自己肯定感が養われると仮説を立てています。その実現のために、地域との連携を進め、持続可能な社会の「創り手」の基礎を培い、「生きる力」の育成へつなげたいと考えています。

本日は、ボランティア活動と道德授業を関連させた地域交流、地域防災、障害者理解、「学校2020レガシー」の四つについて、本校の学びを深める、地域の力と学校の力をテーマに紹介させていただきます。

初めに、地域交流です。本校におけるボランティア活動の構造です。教職員は、地域と生徒をつなぐかけ橋としての役割を果たしますが、地域の方と生徒が直接関わり合えるよう、教職員の役割はあくまでも窓口という形にすることで、このようなボランティア活動が実現しています。

活動の流れです。前年度末から新年度当初にかけて地域団体から本校へのボランティア募集。ボランティア担当の教職員による年間ボランティアスケジュールの生徒周知。ボランティア当日の1カ月ほど前から生徒の申し込みが始まります。地域団体が作成した申込用紙を教職員が配布し、受付の窓口になります。ボランティア当日の1週間前に行う地域の方による説明会、担当教職員が地域団体の方と日時を調整し、学校の1室に生徒を集め

ます。説明は直接地域団体の方が行い、生徒からの質問も直接地域団体の方に答えていただきます。そして、写真にある南中ブルーのボランティアTシャツを貸し出します。

ボランティア当日は、地域団体の方と生徒が直接交流して活動を行います。ボランティア終了後、生徒はTシャツの返却と振り返りの報告書提出を行い、完了となります。地域団体から感謝状をいただくこともありますので、その際は集会等で表彰します。ボランティアを終えた多くの生徒が「人の役に立ててよかった」「また参加したい」と、次のボランティアにも前向きな姿勢を示しています。

ボランティア活動の一部ですが、小学校、児童館、自治会、地域など、昨年度は16の活動に参加することができました。最近では、PTA主催上映会、非行を生まない社会づくり連絡会主催の農業体験に参加できました。これらが主催の方々を作成していただいた申込用紙となります。

校内においても、ごらんの活動に意欲的に参加しています。活動の価値づけ等として、道徳授業と関連づけています。1年生には小学校のときに見た南中ボランティアを想起、2年生には防災、3年生には無言の称賛など、心揺さぶる答えのない問いを議論させています。

次に、地域防災です。本校が災害時の避難所であるという立地を生かし、消防団、消防署、区役所、町会等の方々と、自助、共助を中心に校内防災訓練に取り組んでいます。周りの状況に応じて、自らの命を守り抜くために主体的に行動する態度を育成し、支援者として、安全で安心な社会づくりに貢献する意識を高めることで、ボランティアマインドを醸成します。

2年生が1年生へ教示、案内する形式で、生徒が自分事となるように取り組んでいます。1年生はグループに分かれ、ローテーションをしながら全てを体験します。

続いて、障害者理解です。中野特別支援学校が隣接している立地を生かし、1年生は入学当初に中野特別支援学校の先生を講師に迎えて、心のバリアフリー講演会を行っています。ここでは、障害の種類についての基礎的な知識や、それぞれの個性を認め、生かしていくことを学びます。

ワークショップでは実際に、わかりづらさやさわりづらさといった、頑張ってもできないことの体験を行うことで、障害者理解の土台をつくります。教職員も、同じ日の午後、特別支援学校の先生を講師とした校内研修を通して、同様に理解を進めます。その後、運動会の予行で中学部1年生の生徒を迎え、一緒に選手を応援したり、応援メッセージを交換

したりしています。

こちらは、応援メッセージの写真です。コロナ禍であっても、途絶えることなく交流を進め、今年度、一昨日3年ぶりに直接交流が実現しました。2年生は合唱コンクールのリハーサルで、中学部2年生の生徒を迎え、交流しています。合唱を見てもらうだけでなく、歌詞カードを渡して一緒に歌ったり、応援メッセージを交換したりしています。これはコロナ禍においても継続することができ、これが合唱コンクールに向けた交流会の様子となっています。

特別支援学校の生徒を招くことができなかつたので、昼休みの15分間を使って文化発表会実行委員会の生徒がオンラインで交流しました。自分のクラスの歌の紹介から始まりましたが、話がどんどん盛り上がり、そのうちに好きな食べ物や映画の話になり、あっという間に15分間がたち、「また話そうね」と手を振って別れました。この交流の経験から、オンライン交流のできることの幅が広がり、新たな交流の形が生まれました。

そして、これまでの交流をしてきた経験を生かして、3年生の直接交流では両校の生徒が行き来して打ち合わせを行い、交流会を企画・運営する会を行います。この写真は、本校生徒が中学部3年生を迎え、司会をして会を盛り上げている様子です。ステージで中野特別支援学校の3年生が司会をして、自分たちが得意としているダンスを本校生徒に教えている様子です。お互いにどんなことができるか、どのようにすれば楽しい会にすることができるか、案を出し合って交流会を行います。3年間で築いてきた友情も深まりました。

最後に、「学校2020レガシー」です。オリンピック・パラリンピック教育における育成すべき資質、ボランティアマインド、障害者理解、スポーツ志向、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚、中でもボランティアマインドと障害者理解を重点として育成を継承しています。これに、本校では環境を加え、グリーンカーテン、南中ガーデン、南中農園等、卒業生の保護者を中心とした地域の方々に学校ボランティア、学校支援ボランティアとして登録いただき、生徒ボランティアを募って活動しています。校内教育支援室「サザンステップ」に通う生徒の自らつくる時間割にも活用できており、今後は地域にお住まいの中野生涯学習大学を卒業された方々との連携を進めていきたいと考えています。

学びを深める地域の力と学校の力における本校の成果と課題を考察しました。生徒の変容です。南中ボランティアを例に挙げますと、定着していた活動がコロナ禍による縮小・中止。しかし、実施方法の変更・検討を通しまして、ボランティアマインドの醸成に関わる道徳教育に取り組み、活動の再開、実現へ向けて、絶やすことなく継続してきました。道徳授

業を関連づけた成果もあり、生徒が誰かの役に立ちたいという思いがかなう活動であることが、自己有用感に裏づけられた自己肯定感の育成に欠かせない活動であることを確かめることができました。生徒が活躍できる学校で過ごす機会をつくっていくことは、未来の地域の一員として、持続可能な社会の「創り手」を育むために重要であると確信できました。一昨年からとり始めた「自分にはよいところがある」の自己肯定感に関する生徒アンケートにおいて、数字が上がったことは、今後の活動をさらに発展させていこうといった思いにつながっています。

教職員・地域の変容です。地域の学校として、連携小学校や中野区特別支援学校との連携・交流、地域各町会、区防災課、消防団等の関係諸機関による地域の力からの支えによって、生徒のボランティアマインドが醸成されていくことを確認でき、これらを大切にしながら、地域の子どもたちを地域の大人たちが支援して育てていこうとする思いが広がっています。

課題としては、地域と学校のさらなる連携強化、学校や地域の人員の変化に対応する恒常的な活動システムの継続、生徒会活動におけるP D C Aサイクルの見直しを常に進めていくことです。特に生徒会活動におけるP D C Aサイクルの見直しを生徒主体で考えさせ、地域の力とつながる「ボランティアマインド」の醸成を通して、生徒が地域や社会で活躍する、2050年に向けた思いやりあふれる未来となる地域貢献を目指す学校づくりを進めてまいります。

今年度から来年度に向けて、中野区教育委員会「学校教育向上事業」研究指定校を拝命しました。子どもたちに生きる力を育む教育を研究し、来年度、中野区の学校や、東京、関東、全国の学校へ発表することで、各校の一助になればと思っています。これからも「学びを深める地域の力と学校の力」をテーマに掲げ、ボランティアマインドの醸成に努めてまいります。

ご清聴ありがとうございました。

入野教育長

竹之内校長先生、ありがとうございました。

ただいま、事務局、小中学校と続けて説明をしていただきました。

ここで、ただいまの説明や協議テーマに関しまして、教育委員の皆様から、質問や感想なども含めて、ご意見を伺いたいと思います。

ご発言はございますでしょうか。

伊藤委員

大変興味深いご発表をありがとうございました。

小学校での大先輩に来ていただいて、自分たちの身近なところから社会や地域の変化を知る活動ですとか、あと中学校での特別支援学校との交流、それも特別支援学校の生徒さんにも教えていただくというような協働、協調、共生と言うのでしょうか。そういったことが含まれた活動など、とても心に残りました。

また、個々の活動だけではなくて、道徳教育との結びつきですとか、今年度の重点目標との結びつけなど、グランドデザインと言っていいのかどうかわからないのですが、学校全体の教育活動に地域との交流、地域の力をお借りしながら、学校の力を地域にお返ししていくということを常に基調として実現されているというところが、子どもたちにとって、とても生き生きとした学びにつながるのではないかなと思いました。子どもたちにとって心に残る体験はずっと宝物になっていくので、そういう意味でも単発のイベントという形ではなく、自分たちがより主体的に関われるような形で、継続的にこういった活動があることの意味は大きいなと実感いたしました。

グランドデザインに結びつけるというか、普段の生活と結びつける工夫として、幾つか挙げていただいたのですけれども、特にこういう点があると他校でも実現できるのではないかと、こういう結びつけ方が教員全体にとってもチームワークを発揮しやすいですとか、何かご経験の中から教えていただけることがあったら、教えていただければと思いました。普段の学校教育全体に、地域の力、学校の力ということを取り入れていく一つの工夫と考えてもいいのかなと思うのですけれども、よろしく願いいたします。

みなみの小学校校長

子どもたちの普段の生活ということと言えますと、やはり本校では自分にできることで人に返していくというのをすごく大切にしていますので、まずは本当に身近なところというのですか。1年生ができること、3、4年生ができること、6年生ができること、それを授業の中だけではなく、全校朝会等も含めて、いろいろな場に応じて、子どもたちにわかりやすく伝えていくというのが、すごく大事なのではないかなと考えております。

また、役に立っているということなかなか子どもは気づかないこともあるので、6年生のこの取組は、「これだけ下級生にとってありがたかったんだよ」ということであったり、先ほどの「落ち葉拾いプロジェクト」というのも、強制ではないけれども、1人10枚ぐらい拾ってくれればと言ったら、用務業務委託業者が本当に1日中落ち葉を掃いていた

のが、みるみる目に見えて落ち葉がなくなっていくのですね。またそれを褒めたりとか、こちらが成果をしっかりと伝えてあげるといったのが大事なかなと。そういった小さな積み重ねが、子どもたちの中にやっぱり生きて、やがて南中野中学校に行つて、地域に出て、さらに自分たちがボランティアとして活躍できる、そういった力になっていくのではないかなと思います。

あと、教員につなげていくという上では、やはり毎年、新たな単元を開発していくというのは非常に手間がかかりますので、教員の入れ替わりがあつても、その活動が継続するように、しっかりと資料を残したり、指導計画を残したり、引き継ぎをしっかりと、資料として、財産として残していくというのが、新しく来た職員も、自分たちもこの取組を続けてみようといった動機になるのかなと考えております。

以上です。

南中野中学校校長

他校等への取組へというところと、教諭のチームワークというところの2点をお答えさせていただきます。

他校への取組へのヒントのようなものになるのかというところにおいては、やはり地域とのつながり方という、本校のボランティアの構造かと思います。地域の方が管理職のところへボランティアを要請に来て、管理職が子どもたち、あるいは先生が子どもたちの間に立って常に橋渡しをやり続けてきたのがこれまでのボランティア活動でしたけれども、橋渡しをした後は、直接地域の方と交流していただくというところをこの後、広げていくことによって、教員の負担の軽減あるいは学校との、また逆に言えば地域との絆の深まり、そういったものにつながっていくのではないかなとも考えています。

また、教員のチームワークということについては、若手の教員を中心に育成の視点もありまして、やはり外部折衝力を高めるすごくいいチャンスだと思っておりますので、生徒会担当教員を中心としながら、教諭という職層の教員にこの折衝の担当を担わせ、様々お互いにOJTを行いながらやっていくことが、主任教諭あるいは主幹教諭からの、また見守りにもつながり、一緒になって活動する喜びにつながっているというふうに考えて、それがまたチームワークにつながっているのではないかなというふうに捉えています。

今後も、チーム南中で頑張つてまいります。よろしく願いいたします。

入野教育長

校長先生方、ありがとうございました。

他にご発言ございますでしょうか。

村杉委員

吉羽先生、竹之内先生、詳細なご説明をありがとうございました。

本日いろいろお話を伺わせていただきましたが、やはり地域の力をお借りして、また子どもたちの力も様々な形で提供して、子どもたちは着実に自己肯定感というのを育てていくのだと思います。それがひいては子どもたちの健やかな成長につながっていくのではないかと思いますので、本当にありがとうございました。

そのような中で両先生にお話を伺いたいのですが、実際に地域の団体からのボランティアの申し込みというのは多くあるのでしょうか。リソースとして、実際は困っていらっしゃるのか、その点を一つお伺いしたいと。

あとは、それぞれ特別支援学級や学校との交流がありますが、その中で共同学習を進めていかれる中で、何かお困りのことがおありであれば、教えていただきたいと思います。

よろしく願いいたします。

南中野中学校校長

それでは、中学校のほうから回答させていただきます。

ボランティア申し込みについては、本当にたくさんいただいております。やはり土日・祝日等の活動が多いということから、部活動との兼ね合いが非常に今、課題になっております。特に部活動の大会間際になってまいりますと、どうしてもそちらが優先されますので、そういった場合には運動部活動ではなく、文化部活動の子どもたちなどにも声をかけながら進めています。

それから、区のほうから支給されていますICTを活用しましてGoogle Classroomというものに募集をかけますと、それを通してGoogleフォームによって申し込みができる。ある意味、24時間申し込みができます。また、教員も名前を書いてもらうことによって一覧表は自然に出来上がる、そんな働き方改革も進めていますので、そういった意味では、その困り感と、ICTをうまく活用しながら、今、進めているような状況があります。

あとは、やはり土・日曜日というところで、自分の時間をつくれなくなってしまうという教員の困り感という部分もあるわけですが、無理をせずに、年に1回もしくは2回、「チャンスがあったらやってみよう」ぐらいの程度で参加してもらえるとありがたいということから、ここには様々な意見があるかとは思いますが、ご家族みんなで、子どもの、生徒

たちの引率も兼ねながら楽しんでしまっても構わないというところで、本校では南中ファミリーとして進めているような部分もございます。

また、特別支援学校との交流においては、みなみの小学校にも特別支援学級があったということであったり、あるいは同じく南台小学校にも、本校にもあります特別支援教室がもう既に定着していますので、特別支援教育におけるハードルはかなり下がっているかなと感じています。しかしながら、やはり特別支援学校の生徒でございますので、その障害程度においてはかなり高い部分もあり、行動面においてびっくりしてしまう生徒は当然のことながらいます。ですので、それを理解させるための様々な取組が、ある意味で課題となり、もしかするとやりがいにもなっているのですが、どのようにしたらいいのだろうという困り感にもつながっているかもしれません。

ですので、今年度、来年度とも研究指定校をいただいておりますので、そちらのいただきました予算をしっかりと活用させていただいて、様々な研修を積み重ね、その困り感を解消していきたいと考えています。お答えになりましたでしょうか。

村杉委員

ありがとうございました。

みなみの小学校校長

小学校だとあまりそんなボランティアの依頼はないのですけれども、その中で地域行事にぜひ参加を。例えばマーチングバンドというのを本校はやっているのですけれども、でも、吹奏楽みたいなのは入っていないのですね。本当に打楽器とキーボード中心なのですが、その参加の要請みたいな形では来ています。あと、子どもたちは参加させてもらっているという意識なのかもしれないのですけれども、お祭りであったり、そういった地域の呼びかけた行事に積極的に出ていくというのも、自分たちにできることで返すというのにつながっているのではないかなと思っています。

あと、交流及び共同学習等で課題としては、やはりそのお子さん、お子さんによって障害特性もあるので、それがかえってストレスになってしまわないように気をつけなければいけないというのがあります。ただ、日々の休み時間や登下校とか、廊下で会ったときとか、そういった日常的な、すれ違ったときの言葉がけとかを繰り返していったり、6年生が神明学級に清掃当番に行ってくれて一緒に清掃したり、そういった中で、6年間を通して、自然とお互いを認め合うような気持ちが育っていているというところがあります。

あともう一つは、あまり無理をさせてストレスになってはいけないとか、やはり個別に指導しなければいけないことがあるという教員の思いが強すぎると、支援学級の担任が、交流及び共同学習にもものすごく積極的かということ、必ずしもそうでないような場面もあるのですね。それについては、校長の方針として、交流及び共同学習をもっと進めて、もっと工夫してほしいというのを学校経営方針として話したり、自己申告の折に、担任にお願いしたりということがございます。

あと、担任のほうが、通常の学級の子どもたちに、神明学級の子どもはこういう子どもだよと、こういう特性があるよ、こういうふうにしてもらえるとうれしいけれども、こういうのはかえってよくないんだよというのを、理解推進教育と言うのですかね。そういったものを年度の初めに行ったりしながら、そういった課題を解消できるように努めております。今後も、ぜひ交流及び共同学習を進めることで、やはり共生社会というのを、そういった力の基礎を築いていくべきなのではないかなと思います。

あともう1点だけ。やはり、ただやってもらっただけだと支援学級の子どもたちの自己肯定感であったり、満足感というのがなくなってしまうので、自分たちも何かできてという、そういう経験というのがすごく大事で、4年生でボッチャの交流会というのをやっているのですけれども、4年生はボッチャをやるのが初めてなのです。神明学級の子どもは1年生から指導計画に入れているので、積み重ねがあるのです。神明学級の子どもが通常学級の4年生にボッチャを教えるような場面があったり、ちょっと自分のほうが上手だったりするような場面もあって、それはすごく自信になったり、そういった場面になっております。

以上です。

平本委員

本日はご説明ありがとうございました。私自身もまた小学生、中学生に戻って、ぜひこういう体験をしたいなと思うようなご説明だったと思います。

お話の中で、やはり地域の中で様々な年代の大人の方とつながることが、やはり子どもたちの多様性の理解につながりますし、またキャリア教育という意味でも非常に重要な役割を果たしているなと感じました。

また、こうした体験の成果の検証という部分でも、学校アンケートなどを通じて、実際に学校に対する肯定的な思いが高まっていることや、あるいは生徒自身の変容ということで、まさに自己肯定感が育まれているというところが、数字というところでもよくわかりまし

たので、成果が出ていると、その検証もなされているという点で、非常によい形になっているなど私自身も感じておりました。

ご質問が2点あるのですけれども、1点目はまず、恐らく子どもたちの中でも、いろいろな気持ちや、その行動も差がありまして、非常に積極的にボランティアや、あるいは地域と関われる、そういう目に見えてわかりやすいお子さんもいる一方で、なかなか、やってみただけけれども、恥ずかしさが出てしまったり、気持ちはあるのだけれども、行動できないという、本当にいろいろなグラデーションがあると思っています。そういう中で、もっとできるだけ、全員というか、多くの子どもたちを巻き込んだ形で地域とつながっていく中でのご苦労や、工夫というのがもしありましたら教えていただきたいというのが1点目です。

2点目は、逆に、子どもたちがどんどん自信をつけていく中で、今度は自分の言葉で発信したり、それを共有したり、学びを深めたことを生かしたいという気持ちがどんどん高まってきているのではないかなと思っています。なかなか低学年では難しいと思うのですけれども、高学年、中学生になりますと、恐らく自信を深めていく中で、ボランティアだけではなく、今度は地域の方と一緒に何かゼロから新しいことをやってみたいとか、そういう意欲が出てくる。実践の気持ちもあるのではないかなと思いますので、もし何かそういうよいお話とか、エピソードとか、考えていらっしゃることなどがあれば、教えていただきたいなと思います。

みなみの小学校校長

子どもの気持ちの差なのですけれども、大事にしたいのは、やはり強要しないということかなと考えています。習い事があったり、スポーツクラブで活動したりしているという、もう十分わかっているという前提の上に、やれる子はということで、その中で、行ってみたら楽しかった、何か自分にも得るものがあったという口コミで広がっていったらいいなと。あと、そこにやっぱり今は働き方改革とかで、休みの日に職員にどんどん出てこいというのはなかなか言いづらい部分はあるのですけれども、でも、行ってみたら校長先生も来ていたとか、何とか先生に会えたとか、それをまた学級でしゃべってくれば、じゃあ、次は僕も行ってみようかな、私も行ってみようかなと、それがだんだん口コミで広がっていくというので、よいのかなと思っています。

あと、子どもたちが企画にかかわって自信を深めていた例として一つだけ紹介させていただくと、昨年度はみなみの小開校5周年ということで、5なので、いわゆる式典というのではないのですけれども、子どもの集会と、それからキッズ・プラザみなみのが主催で、そ

ここにPTA、地域、学校も一緒に共催ということで、キッズ・プラザのほうで子どもの実行委員というのを広く募ったのですね。保護者の実行委員も募り、子どもの実行委員も募って。子どもの実行委員になった子どもたちが、11月のイベントに向けて、夏休みの終わりぐらいからたびたび集まっては自分たちでアイデアを出したりしながら当日を迎えて。もちろんそれを実現してくれる大人の支援というのがあったと思うのですけれども、もう喜々とした顔で子どもたちが活躍していて、その子たちはすごく自信につながったし、またその様子を見ていた当日参加した子たちも、もしまたそういう機会があったら自分もやってみようかなと、そういった気持ちにもつながったのではないかなと思っています。

以上です。

南中野中学校校長

南中野中学校のほうでは、まずボランティアへの気持ちの差や行動の差というところではあるのですが、このコロナ禍においてなかなか外に出る機会がなくなった中で、やはりある教員のほうから、校内でボランティアをどんどんつくればいいではないかと、こんな話が出まして、生徒会を中心にしたときに、「そうだよね」というところから、生徒会がやはり生徒会の朝礼などをおこしながら、そこで校内のボランティアはどんなものがあるだろう、あるいはどんなことができるだろうということで、先ほど紹介をしました、本当に簡単な椅子並べであるとか、あるいは清掃週間の、いつも清掃はなかなかしないところの週間であるとか、それを今までは分担を決めて何組とか、何部とかやっていたのを、ボランティア募集をかける形でやってみたらどうだろうかとなりましたところ、なかなか表に一步出られない子どもたちが、かなり活動し始めました。

なので、これはいいぞということで、今ハイブリッドで両方、外に出ることもやり、中でもやりということで、確かに土・日曜日、クラブチームで野球やサッカーをやっているお子さんは年中やっていますので、なかなか土日は行けない。だから、せめて校内でのボランティアをやるというようなことを今子どもたちのほうで進めていますので、それらもひっくるめると、多分「ボランティア経験がある」というアンケートがもしとれたとするならば、本校は多分100%に近くなっていくのではないかなと思いますので、気持ちの差、行動の差に関係なく、機会があるということが、どのように引き出しを渡してあげられるかということが、私たち教師の支援になるのかなというように思っています。

それから、自分の言葉で発信というようなところにつなげたいという部分については、実はもう既に意見発表会などを区としてもしてくださっていたり、いろいろな作文によっ

て発表するというようなことも、様々なコンクールやコンテストでいただいているので、このボランティア活動なども実体験と書きますと、うれしいことにたくさん入選させていただけるということから、子どもたちがやはりボランティア活動を意見発表会、そして、今後の自分の生きる力につなげていくような形で、発表する機会を設けさせていただいています。

また、先ほどみなみの小の5周年のお話をいただきましたけれども、本校では来年度が15周年になるということで、この5月に入りまして、まず教員の15周年に向けた準備委員会というのを立ち上げました。そして、運動会がちょうど明日予定されているのですけれども、運動会が終わりましたところで、生徒会を中心としながら、またこの15周年の準備実行委員会のボランティアを募り、地域や、あるいは様々な学校支援ボランティアの方々にもお声がけをしながら、自分たちがグループワークみたいな形で、射的をやれるところ、輪投げをやれるところみたいな、そういうブースをつくって、地域や小学校の子どもたちを招いて、15周年のお祝いをみんなでやろうというような雰囲気が、今盛り上がっているところになっています。

ほかにも、15周年というところで校歌をマーチングにして、それを吹奏楽部で奏で、運動会の入場行進に使ったり、子どもたちのほうからも、「第一中学校と中野富士見中の統合校なんだよね」というところから、その2校の校歌の1番もメドレーで中に入っていたり、地域の方とのつながりをとても意識したものになっていて、それを吹奏楽部がマーチングで先導する。そんな入場行進もすることができていたり。

さらには、中野区でサンプラザがさよならパーティを開くということで、ギネスブックに載ろうということもあるようですけれども、「東京音頭」を中野区の小学校も東京オリンピックの開会式で披露したということからの延長で、「これはいいぞ」ということから、南中野中でも今ボランティアを募集してしまして、踊ろうと。踊って、ちょっとお金はかかるのですが、南中野中学校の名前でギネスブックに載る、賞をいただく、飾るところも、自己肯定感の涵養につながっていくのではないかとということで、子どもたちが今、募集をしているような状況もあります。

いろいろなところで、発信するという部分も、外へ外へとできる力が今育っているのではないかな、そんなふうにも思っているところです。

入野教育長

その他、何か発言はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、協議を終了するに当たりまして、私のほうからお話をさせていただこうかなと思っています。

やはり子どもたちの主体的な活動に結びつけるには、いろいろ学校が工夫していらっしゃるなと思いました。

一つはやはり経験をしないことには、なかなか主体的な活動に結びつきませんので、このところまで子どもたちを持っていくというのでしょうか、そういうようないろいろな仕掛けをしていらっしゃるな。ボランティアという言葉もそうかなと思います。何となくハードルが下がりますので、主体的に活動に取り組みやすいのではないかなんていう感想を持ちました。学校としては、公立学校ですので、先生方がいかにこれに関わっていくかという、先生方の働き方も併せて、これはいろいろな課題になってくるのではないかなということ。

あとは、校長先生方も含めてどうしても異動がありますので、継続的に、恒常的に、どうこれをその学校の特色として残していくかということについても、課題は出てくるのではないかなと思っています。

その辺をいろいろ、このことだけではないのですが、教育委員会では中野区コミュニティ・スクールということで構築していけないかと考えている部分もあるわけですし、子どもが出るボランティアではなくて、学校に力を貸していただくほうのボランティアも、先ほど室長から話がありましたけれども、もっと計画的・継続的なということで、学校を応援する地域学校協働本部といったものについても、このコミュニティ・スクールと併せてという考えで今、モデル実施をしているところでございますので、今回、地域と一体となって子どもたちを育てるということでは、いいご示唆をお2人の校長先生の実践からいただいたかなと思っています。

学校がお力を借りるばかりでは、これは成立していかない部分かなと私はやはり思っています、双方向になる部分がすごく大事なかなと思いますので、今お話ししましたようにコミュニティ・スクールを進めていく上でも、いろいろモデル、その場所、その場所の中学校区のモデルによって、さらにいろいろ深めていければいいかなと思っています。

本日の取組も、充実していただけてきたことを区全体にどう生かしていくかが、私どもの仕事になっていくかなと思います。本日はどうもありがとうございました。

本協議はこれで終了したいと思います。

ここで会議を一旦休憩いたしまして、傍聴の方々からもご意見などを伺いたいと思いま

すので、会議は休憩いたします。

午前 11 時 07 分休憩

午前 11 時 16 分再開

入野教育長

会議を再開いたします。

今、いろいろご発言をありがとうございました。本日開催いたしました地域での教育委員会の狙いは、地域に住んでいる方や学校の先生方と直接お話をする機会を得ることでもありますので、具体的にいろいろなお話を伺うことが今日もできたかなと思っており、そういう狙いが、私どもにとっては一番有意義なのではないかなと思っており、今後の教育行政に生かしていきたいと思っており、

それでは、最後に事務局から次回の開催について報告願います。

子ども・教育政策課長

次回の教育委員会でございますけれども、6月9日金曜日午前10時から、区役所5階、教育委員会室で開催する予定でございます。

以上です。

入野教育長

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして教育委員会第19回定例会を閉じます。

ありがとうございました。

午前 11 時 17 分閉会